

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

## 研究会基本情報

2016年度第3回研究会（通算第9回目）

日時：2017年3月24日（金）14:00-16:00, 2017年3月25日（土）～2017年  
3月30日（木）10:00-17:00（27日のみ公開）

場所：AA研マルチメディアセミナー室(306)

国際ワークショップ「インドネシア ヌサ・トゥンガラ・ティムール州の危機言語記録のためのワークショップ」

コーディネーター：

塩原朝子（AA研所員）

Antoinette Schapper (AA研共同研究員, KITLV)

Yanti (AA研共同研究員, Atma Jaya Catholic University of Indonesia)

参加者：

Amos Rehabeam Sir (UBB GMIT Kupang)

Semram Serang (Education and Culture Service of Sub Region of Pantar)

Dominikus Tauk (Udayana University)

Jermy Imanuel Balukh (STIBA Cakrawala Nusantara Kupang)

Elsijon Marjesi Thine (Smpn Satu Atap Batulai, Rote)

Anderias Susang

3月27日公開講演のプログラム

Antoinette Schapper (AA研共同研究員, KITLV)

“History of a macro-linguistic area through lexico-semantics: The case of Southeast Asia”

Amos Rehabeam Sir (UBB GMIT Kupang)

“Languages in Alor”

I Wayan Arka (AA研共同研究員, AA研客員准教授, オーストラリア国立大学)

“Plurality and comitatives in Indonesian languages”

Yanti (AA研共同研究員, Atma Jaya Catholic University of Indonesia),

Dominikus Tauk (Udayana University), 塩原朝子 (AA研所員)

“Metathesis and Truncation in Helong: A Preliminary Study”

Jermy Imanuel Balukh (STIBA Cakrawala Nusantara Kupang), and Elsijon

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。  
Copyrighted materials of the authors.

Marjesi Thine (Smpn Satu Atap Batulai, Rote)

“An overview of Rote language”

#### 研究会の概要

今回の研究会は、基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築 (LingDy3)」との共催による国際ワークショップ「インドネシア ヌサ・トゥンガラ・ティムール州の危機言語記録のためのワークショップ」の形で開催した。研究代表者と共同研究員2名がコーディネーターを務め、インドネシア ヌサ・トゥンガラ・ティムール州から6名の母語話者（うち2名は研究者）を招聘し、共同で危機言語の記録を行った。具体的には各話者の会話・民話・ライフ・ヒストリーなど様々なジャンルの発話を録音・撮影し、話者と共同でアノテーションを行った。得られたデータはアノテーションとともにオーストラリアの言語アーカイブ PARADISEC に登録する予定である。

27日は各参加者がそれぞれの調査・研究内容について研究発表を行った。